

P2-016

0～3歳児をもつ母親の「子育てに対して抱く感情」と「子どもへの感情」

秦野 悦子¹、瀬戸 淳子²¹白百合女子大学人間総合学部²帝京平成大学健康メディカル学部

【目的】

Bronfenbrenner(1971)は生態学システムにおいて、子どもの発達に影響を与え得る環境要因の中心にマイクロシステムがあり、子どもを取り巻く人々がどのように生活場を共有するかというエコロジカルな視点を重視した。筆者らは三世同居と核家族という居住形態の違いにより、祖母や父親の家事行動、育児行動をあり方、母親の子育てネットワークのあり方を総合的に検討している。本報告では0～3歳児を第一子にもつ母親を対象に、家族の居住形態により、「子育てに対して抱く感情」と「子どもへの感情」について明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査参加者：関東、中部、近畿在住者を主とするが北海道から九州地方在住で、0～3歳児を第一子(Range :9か月～3歳9か月)にもつ母親(M=31.4歳、SD=5.0か月)であり、実親と三世同居群103名、夫親と三世同居群103名、核家族群164名の計370名を対象とした。調査期間：2017年1月。手続き：子育て環境や育児感情などに関する25設問からなる質問紙調査を実施した。データ収集にあたっては、(株)マクロミル社ネットリサーチを利用した。また公益財団法人前川財団の「平成28年度 家庭・地域社会教育研究」助成を受けた。分析対象：Q22:子育てに対して抱く感情、21項目(「楽しい」「やりがい」「親の成長」「自信をなくす」等)、Q23:子どもへの感情、9項目(「憎らしい」「かわいい」「煩わしい」「育てやすい」等)について、4件法で回答を求めた。

【結果と考察】

1) 子育てに対して母親が抱く感情：母親の子育てに対する感情設問12項目を固有値1、負荷量0.40を基準に因子分析し(主因子法バリマックス回転)、3因子が抽出された。第1因子は5項目よりなる「やりがい」因子、第2因子は4項目よりなる「負担」因子、第3因子は2項目よりなる「自信のなさ」因子だった。2) 子どもへの感情：母親の子どもへの感情設問9項目を固有値1、負荷量0.40を基準に因子分析し(主因子法バリマックス回転)2因子が抽出された。第1因子は5項目よりなる「不快」因子、第2因子は3項目よりなる「相性の良さ」因子だった。3) 居住形態の違いにより子育て感情「負担」「自信のなさ」に差がみられた(分散分析)。子どもへの感情「不快」に差がみられた。4) 各因子間相関は居住形態の違いにより、異なる結果が得られた。

P2-017

立ち会い出産と夫の家事育児行動に関する文献検討

甲斐村 美智子

熊本保健科学大学保健科学部 看護学科

1. 【目的】

近年の少子化に伴い、出産を取り巻く環境は大きく変化した。産婦の価値観は多様化し、母子ともに安全な出産であることはもちろん、産婦とその家族が主体的に取り組み、満足できる出産が求められている。出産満足度は産後うつや育児ストレスを軽減させることが明らかにされており、出産満足度の関連要因として夫の存在が重要視されている。夫にとって、立ち会い出産は児の愛着形成に有効であることが明らかにされているが、産後の生活における家事や育児への影響に関する報告は多くはない。そこで、本研究では、立ち会い出産と夫の家事・育児行動との関連について国内文献より検討する。

2. 【方法】

医学中央雑誌Web版(Ver.5)、CiNiiを使用し、「立ち会い分娩」「夫or父親」「家事or育児」をキーワードに原著論文を検索した。該当文献は39件であり、これらの題目と抄録から、レビュー以外の立ち会い出産と夫の家事・育児行動について記載されている文献を抽出し、8件を分析対象とした。

3. 【結果及び考察】

調査の対象は夫が4件、妻が1件、夫婦が3件で、時期は出産入院中のものでから児の就学前までと幅があった。家事行動との関連について記載されていた文献は4件であり、立ち会い出産と関連がある、反対にないという報告があり、相反していた。育児行動との関連について記載されていた文献は8件であり、立ち会い出産群は育児参加や愛着行動が多く、育児行動は積極的であるという報告が大半であった。出産に立ち会い、子どもに早期に触れることを通して児にのめり込む感情が湧きあがることから、夫にとって子どもの誕生にかかわることは育児への動機づけとなり、その後の育児行動を促進する要因になると考えられる。一方、育児中の女性を対象にした調査で、最も夫に参加してほしい家事・育児は「子どもの遊び相手」と報告されている。夫が子どもの相手をしている間、女性は家事や自分の時間の確保につながるから、夫には家事より育児への参加を望む女性が多いと考える。このような女性の意識もあり、家事よりも育児に積極的な夫が多いと考える。

4. 【結論】

立ち会い出産と夫の家事行動との関連に統一した見解はなかったが、育児行動は積極的との報告が大半であった。夫の積極的な育児行動は女性の育児ストレスや夫婦関係等の情緒面にも影響することから、立ち会い出産は大きな意義をもつと考えられる。